

平成 26 年度第 2 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 26 年 7 月 30 日 (水)
14:00～16:00
 - (2) 場 所 一関市役所 2 階 大会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者等
 - (5) 参加者 276 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 26 年度 第 2 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 26 年 7 月 30 日 (水)

14:00～16:00

場所：一関市役所

2 階 大会議室

次 第

1 開 会 14:00

2 挨拶

3 講 演 14:15～15:45

「『認知症』正しい知識と最新治療・効果的なケア」

講 師 独立行政法人 国立病院機構 岩手病院 院長 千田 圭二 氏

4 行政報告 15:45～16:00

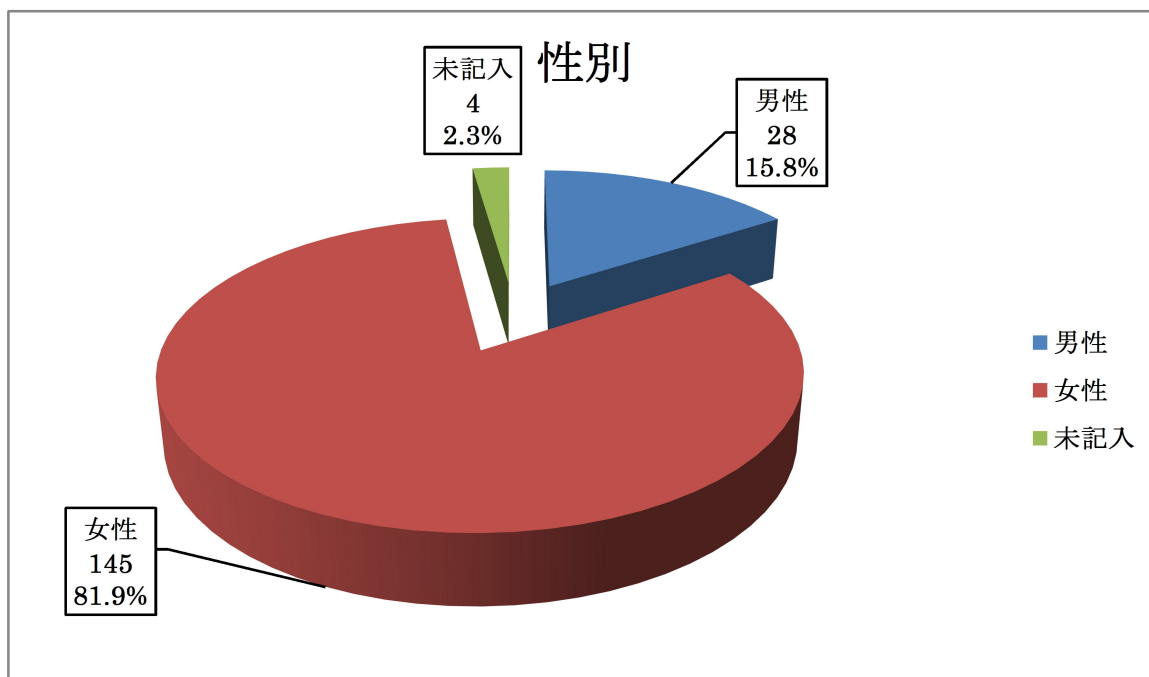
5 閉 会 16:00

2 アンケートの集計結果

回答者数 177 人 (回収率 64.1%)

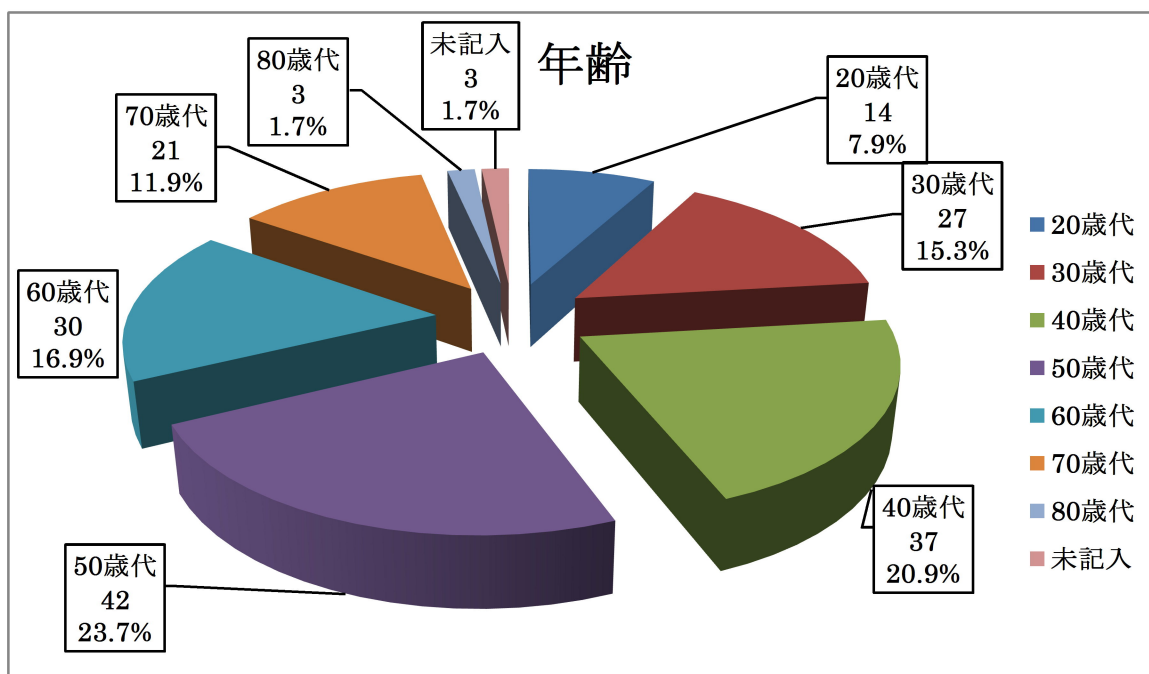
質問1 性別

男性	28 人 (15.8%)
女性	145 人 (81.9%)
未記入	4 人 (2.3%)



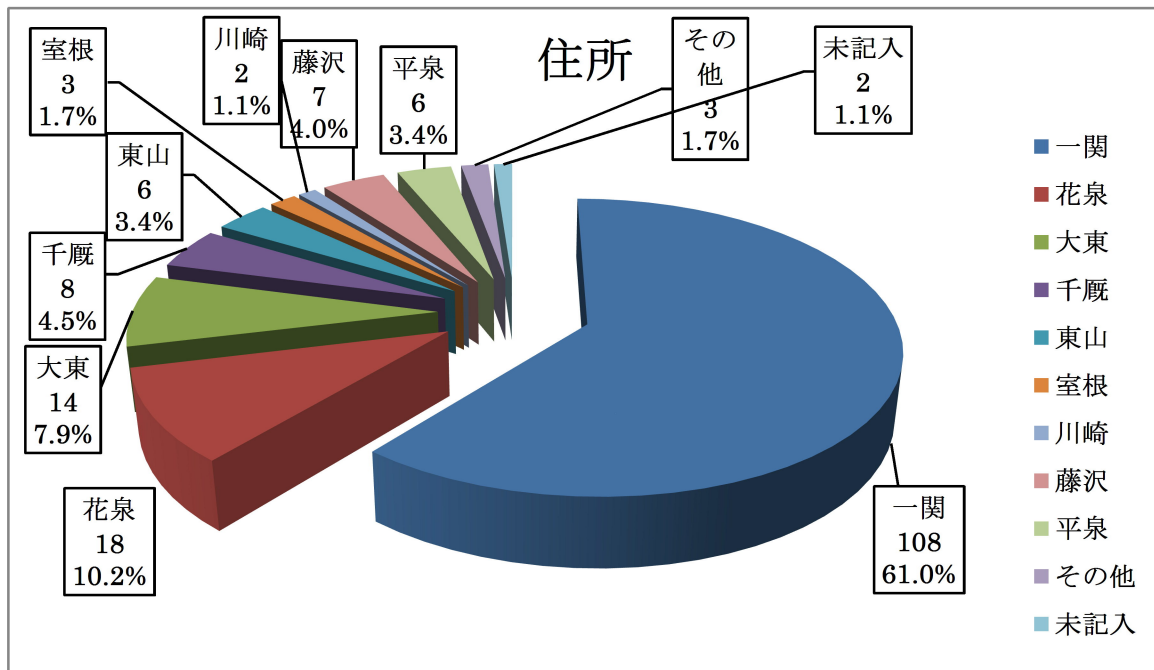
質問2 年齢

20歳代	14 人 (7.9%)	30歳代	27 人 (15.3%)
40歳代	37 人 (20.9%)	50歳代	42 人 (23.7%)
60歳代	30 人 (16.9%)	70歳代	21 人 (11.9%)
80歳代	3 人 (1.7%)	未記入	3 人 (1.7%)



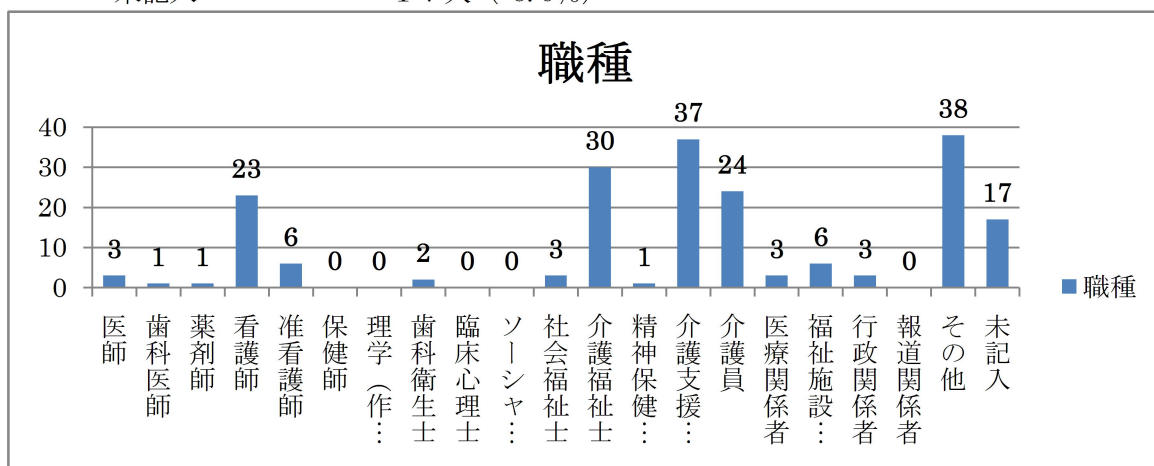
質問3 住所

一 関	108人 (61.0%)	花 泉	18人 (10.2%)
大 東	14人 (7.9%)	千 厩	8人 (4.5%)
東 山	6人 (3.4%)	室 根	3人 (1.7%)
川 崎	2人 (1.1%)	藤 沢	7人 (4.0%)
平 泉	6人 (3.4%)	その他	3人 (1.7%)
未記入	2人 (1.1%)		



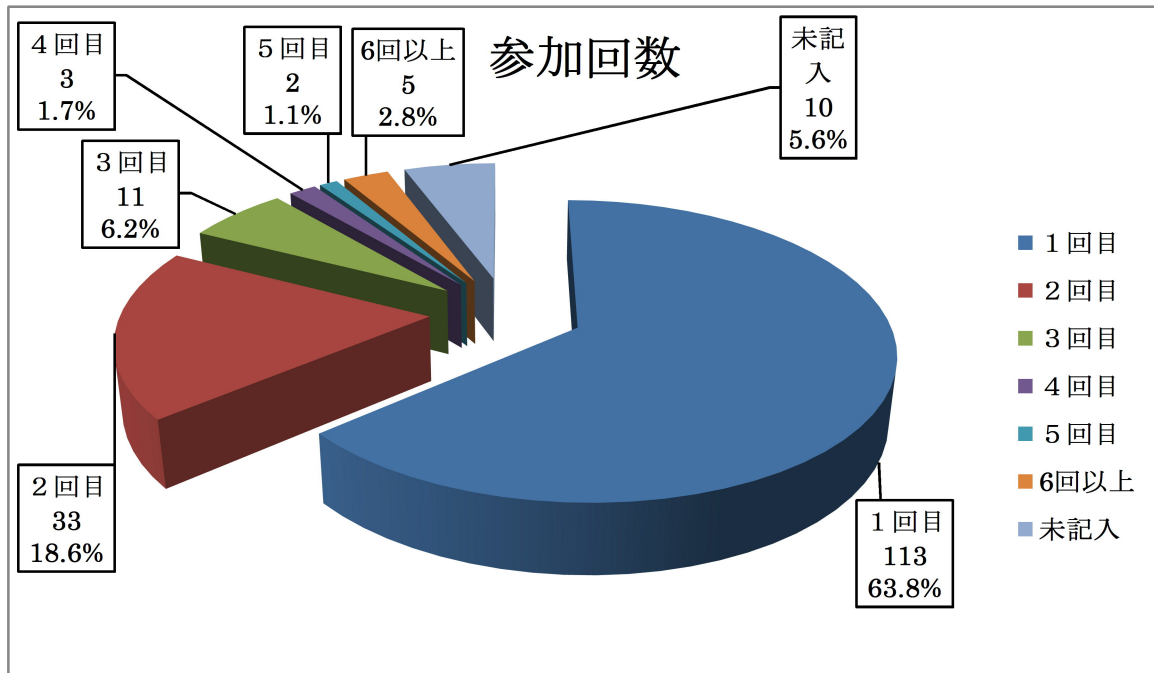
質問4 職種

医師	3人 (1.5%)	歯科医師	1人 (0.5%)
薬剤師	1人 (0.5%)	看護師	23人 (11.6%)
准看護師	6人 (3.0%)	保健師	0人 (0.0%)
理学(作業)療法士	0人 (0.0%)	歯科衛生士	2人 (1.0%)
臨床心理士	0人 (0.0%)	ソーシャルワーカー	0人 (0.0%)
社会福祉士	3人 (1.5%)	介護福祉士	30人 (15.2%)
精神保健福祉士	1人 (0.5%)	介護支援専門員	37人 (18.7%)
介護員	24人 (12.1%)	医療関係者	3人 (1.5%)
福祉施設関係者	6人 (3.0%)	行政関係者	3人 (1.5%)
報道関係者	0人 (0.0%)	その他	38人 (19.2%)
未記入	17人 (8.6%)		



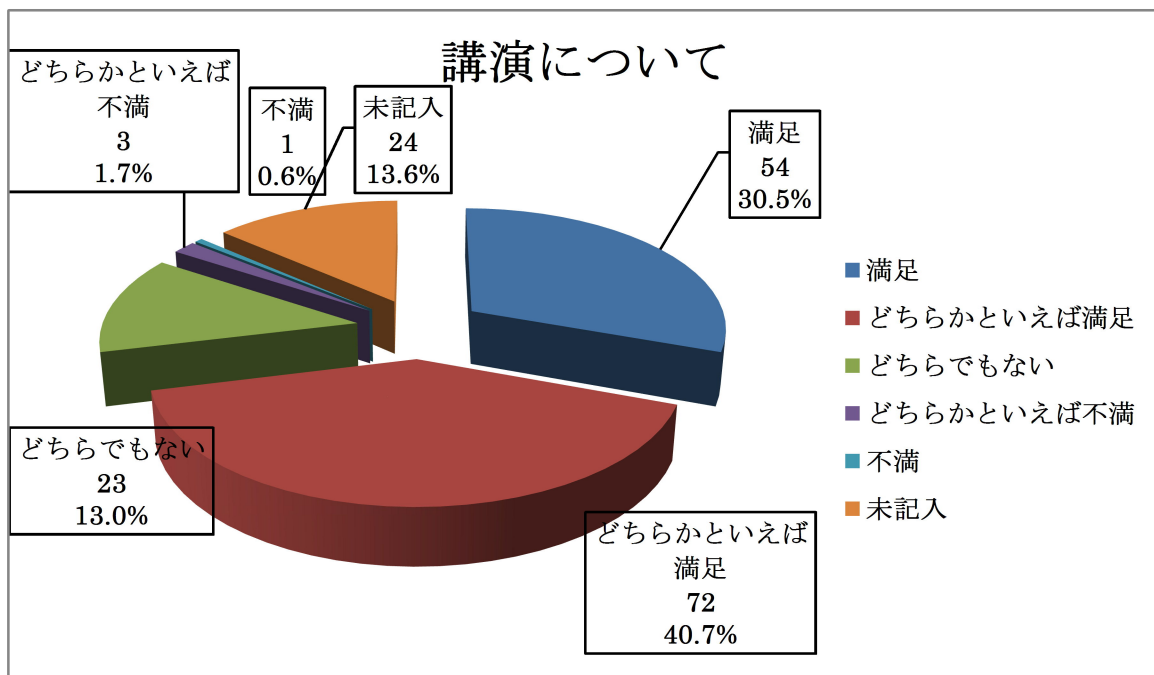
質問5 参加回数

1回目	113人 (63.8%)	2回目	33人 (18.6%)	3回目	11人 (6.2%)
4回目	3人 (1.7%)	5回目	2人 (1.1%)	6回以上	5人 (2.8%)
未記入	10人 (5.6%)				



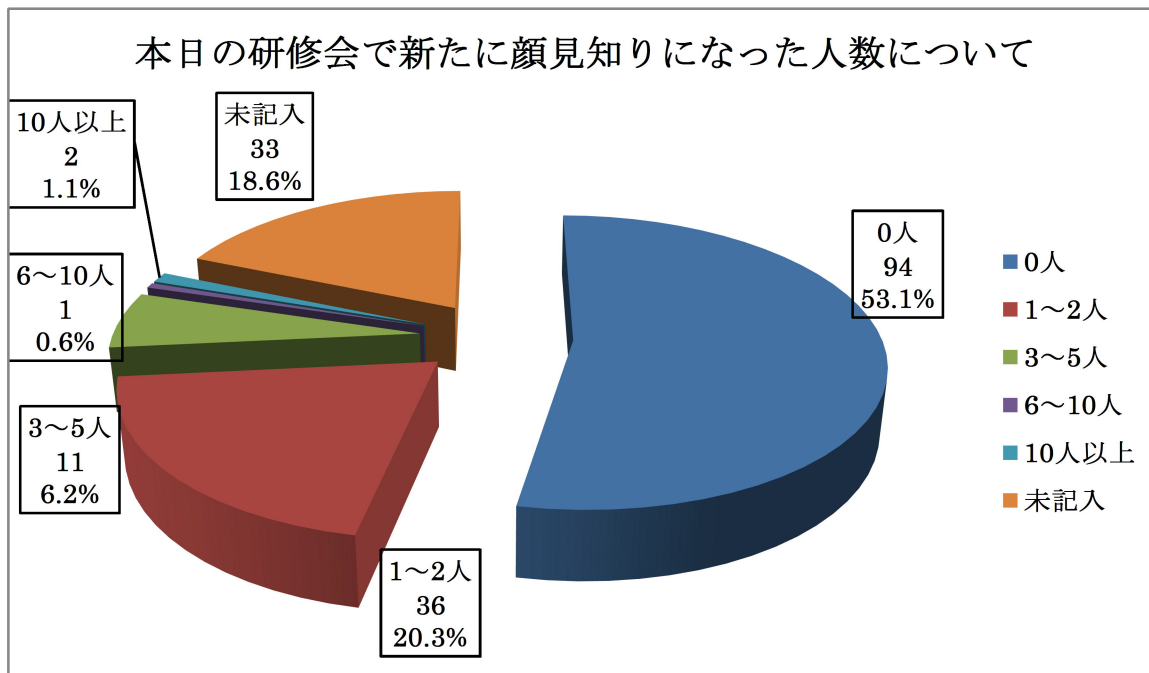
質問6 講演について

満足	54人 (30.5%)	どちらかといえば満足	72人 (40.7%)
どちらでもない	23人 (13.0%)	どちらかといえば不満	3人 (1.7%)
不満	1人 (0.6%)	未記入	24人 (13.6%)



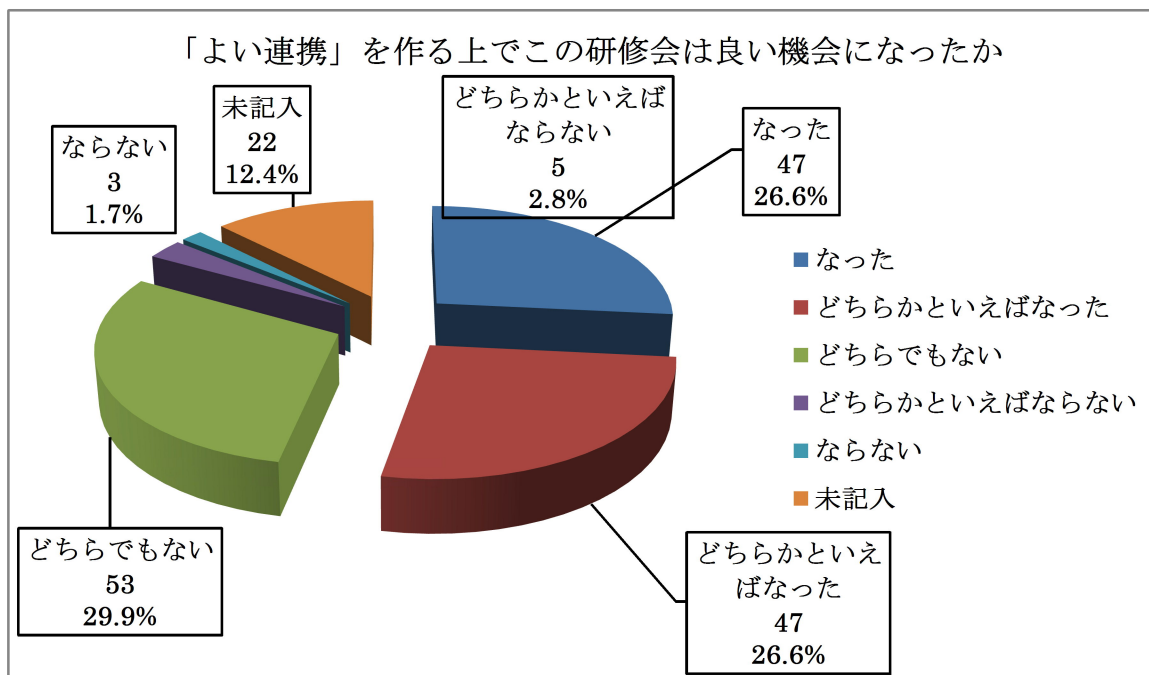
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	94人 (53.1%)	1~2人	36人 (20.3%)
3~5人	11人 (6.2%)	6~10人	1人 (0.6%)
10人以上	2人 (1.1%)	未記入	33人 (18.6%)



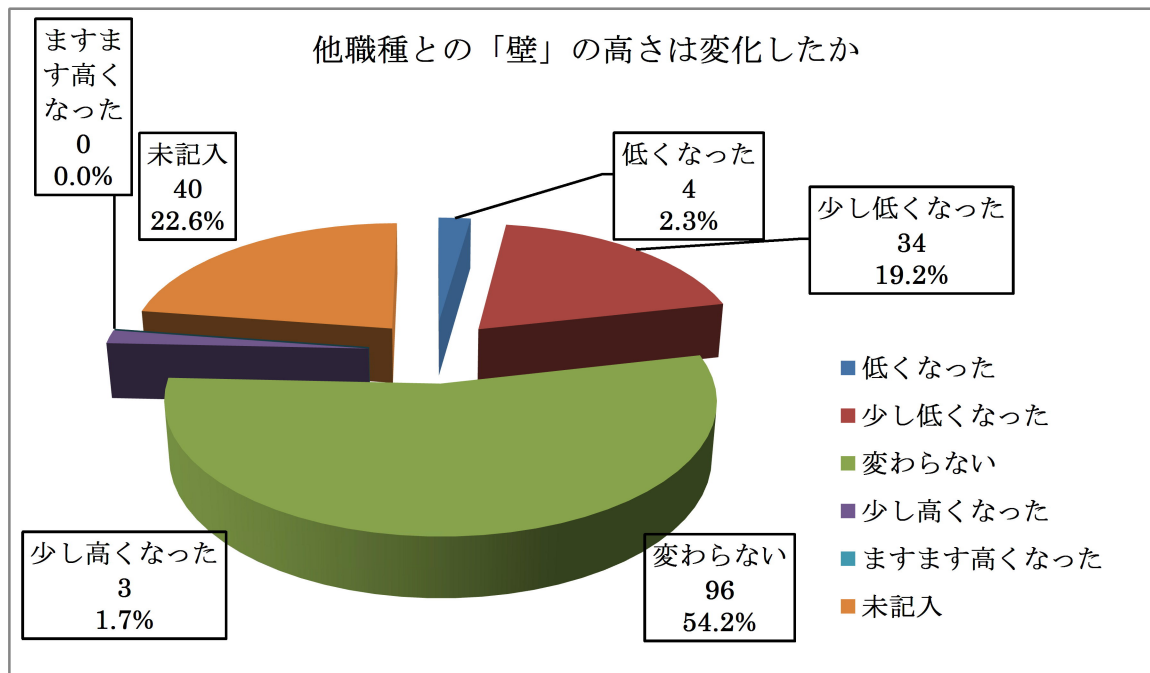
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	47人 (26.6%)	どちらかといえばなった	47人 (26.6%)
どちらでもない	53人 (29.9%)	どちらかといえばならない	5人 (2.8%)
ならない	3人 (1.7%)	未記入	22人 (12.4%)



質問 9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	4人 (2.3%)	少し低くなった	34人 (19.2%)
変わらない	96人 (54.2%)	少し高くなった	3人 (1.7%)
ますます高くなった	0人 (0.0%)	未記入	40人 (22.6%)



質問 10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・ 家族、地域との連携がより重要である。

(看護師)

- ・ ネットワーク。
- ・ 職場、専門職員は病気等分かりますが、一般の方も入りやすいセミナーにして欲しいと思います。
- ・ 一連の情報共有。病院、家族、介護施設など、同じ情報を同じように共有できればスムーズに進められる事も多いと思う。病院に来て、家族が話すこと、介護関係者が話すことが少し違ったり、情報が欲しいと思うとき、ケアマネさんが来院したりと手間があると思う。どうにかみんなで共有できれば思います。
- ・ 正しい情報の共有、理解。
- ・ 信頼関係、コミュニケーションが大切ではないかと思えます。
- ・ 医療機関 = 施設 = 患者間の繋がりを広げられれば良いのですが。
- ・ みんなで考えること。
- ・ 認知症と診察され、朝・夕の薬を処方されましたが最近症状がひどくなり南光病院紹介となり、昼も薬追加されました。
- ・ 信頼関係。
- ・ 一人暮らしで病院受診する方、薬の管理がうまくいかずご家族の協力も得られない場合どうしたらよいか分からない。医療と介護サービスの連携がうまくいかない。本人は担当のケアマネさんも分からず困ることが多いです。在宅でヘルパーさん同伴の病院受診が見られないように思います。
- ・ それが知りたかったです。
- ・ リンクローカーをどのように発信するのか？
- ・ お互いの職種を理解すること。意見交換の場を持つこと。機会を作ること。

- ・定期的な会議。
- ・意見交換が思うように出来ないで、患者さんの様子がよく分からないので、医療と介護間のノートがあったら良いと思う。家族には知らされているようなのでそのノートを病院でも見られるように話してくれても良いのかな？と思う。
- ・研修会を重ねて行く事で、お互いが共有できるのではと思う。

(准看護師)

- ・在宅サービス利用中に体調を悪くされる方がいるのですが、病院の受け入れを拒否されることがあります。生死に関わる事もあるかもしれないので拒否がないように出来ないものでしょうか。(かかりつけ医でも断られることがあります)

(介護福祉士)

- ・顔見知りになる。話す。
- ・関わりのある全ての人の連携が必要だと理解すること。
- ・どこの病院、施設へ行っても同じ考え方でケアを出来る情報を共有できるものがあると良いと思います。
- ・情報の交換。
- ・情報の共有と各職種をお互いに理解すること。各専門家としてお互いを尊重すること。
- ・積極的な担当者会議の参加。(あまり医療関係者が参加されていない。)
- ・交流。
- ・報告、連絡、相談(ほうれんそう)が必要なことだと思います。

(介護支援専門員)

- ・お互いが連携を意識すること。片方だけではできない。
- ・お互い顔の見える関係にあること。
気軽に相談できる環境があること。
- ・医療側、介護側お互いの知識を増やすこと。
話し合いを持つこと。(研修会やグループワークで交流する)
- ・具体的な情報を提供すること。
- ・家族の早期発見、地域との連携。
- ・研修会。自己紹介の場を作るとか、飲み会をやるとか。
- ・お互いに物事を決めつけないで連携することだと思います。
医療は医療、介護は介護と区別するのでなく、あくまでも利用者の流れで行うことが良いのではないかと思います。
- ・お互いの状況、持っている知識の理解と、お互いを信用する事が大切だと思います。
- ・お互いの立場から現状を伝えるが、うまく伝えられないことがあるので、簡易でわかりやすいシートなどがあれば良いのではないかと思います。
- ・できるだけ一般の人にも、広く理解を求める。今回のような研修をきっかけにする。
- ・介護職の方の意見を出せる環境を作ること。連携する内容ごとに窓口があれば助かるのではないかと思います。
- ・他職種の方の仕事を尊重して、理解し、顔が見える関係を作ることが大事。
- ・情報が共有できて、自宅で過ごすための留意点ができること。

(介護員)

- ・情報の共有。
- ・医療の必要性をご家族様に理解頂く指導を強く求めます。
なぜ？施設に入所してしまうと、家族は遠のく傾向にある。症状が進行するでしょう？
- ・様々な情報交換を行っていくこと。
- ・相互の理解とコミュニケーション(情報交換)。
- ・コミュニケーション。

- ・医療の連携があれば対応の仕方など対策をとれたらいろいろ分かって良いと思います。
- ・相互理解をもつ。

(医療関係者)

- ・顔を知ること。相談できることが大事。介護者や関係者のストレスケアも必要。

(福祉施設関係者)

- ・信頼関係。
- ・今日は連携とは直接関係のない講演でした。
- ・関係スタッフの増員。

(行政関係者)

- ・信頼。互いの研修、コミュニケーション。

(その他)

- ・介護人の精神的・肉体的負担。
- ・専門すぎて少し難しかったです。
- ・笑顔での対応が大切かと日頃思います。
- ・職種の壁を越えての交流・情報共有。
- ・情報交換。
- ・情報交換をする場を多く持ち、お互いの立場を理解しながら連携すれば良いのではないですか。
- ・思いやりと優しさで接する。医療を行う側と介護を行う側それぞれのメリットを確認し合い、それぞれサポートすることだと思います。私の体験上、近しい身内の人間が辛い思いをしていることがはっきりして安心しました。いろいろ思い当たることが多く良い勉強をさせていただきました。
- ・「こうして認知症は改善できた」等の体験談の発表、データの公開などの工夫もしてほしい。特に地域全体で取り組んだ例、取り組んでいる例なども紹介して欲しい。
- ・医療側の受け入れを「年だから」と済まさず、一人の人間として診察して頂きたい。正しい服薬、対応をお願いしたい。
- ・質問を聞いて思ったことを書きます。
テレビは午後の時間帯（お年寄りがよく見るような時間帯）サスペンス系のものがよく放映されています。このような、内容のテレビを見ていて、妄想や思いこみ等に影響するのではないかと思うことがありますかどうか？
また、症状が進んでくると、ストーリーを追えなくなって、テレビを集中して見る事が出来なくなってきます。そうするとテレビは見ているのではなく、ただ流れてるものでしかないように思います。今、臨床美術（クリニカルアート）が注目されています。そのような研修も施設の方々（スタッフ）が受けられると利用者の方々のQOLが上がるように思います。
- ・一般で参加。内容難し（医療専門の人と同じでは）
- ・事例をもとにした現場の情報を共有し連携すること。
- ・もう少し具体的をお願いしたい。
- ・認知症についての話が聞く機会ができて良かったです。さらに、認知症の方を介護して家族、職員の疑問等について回答してもらえると良いかと思います。
- ・今の所思いつきません。
- ・老人ホーム等の施設に定期的な医師の訪問等があると助かるなどと思います。
- ・スムーズな連携。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(薬剤師)

- ・緩和ケア。

(看護師)

- ・神経難病と在宅について。
- ・脳梗塞、パーキンソン等の疾患について分かりやすく説明が受けられれば良いのですが。
- ・総合病院をもう一つ増やして欲しい。
- ・一人暮らしの方が体調悪く一人で病院受診された場合の援助。連絡の方法、地域によって主に連絡するところが知りたい。その方がどの程度のサービスをうけているのか分からないので連携できる方法はあるのか？
- ・一関市としてパラメディカルの連携をどうつないでいくのか具体的に知りたい。

(歯科衛生士)

- ・精神疾患、子供・大人のADHD、アスペルガーなど。

(介護福祉士)

- ・今回のようなテーマや身近なテーマ（排泄・食事・栄養・住環境 etc・レク）新人介護職員を対象にした新人研修会。
- ・同行援護、ガイドヘルパー。
- ・もっと介護の現場からの視点や何も知らない市民に対して寄り添うことも大切。
- ・システムの流れを具体的に図形化して欲しい。
- ・事例を上げてどの様に対応したらよいかアドバイスを頂きたい。

(介護支援専門員)

- ・退院してからの受け皿が不足しているので、その辺を。
- ・インターネットで介護保険施設の空床・入所待ち情報の確認をしましたが、更新日はずいぶん前の古いのが沢山ありました。毎月1日には更新するなど、ルールを決めてはどうでしょうか。
- ・介護・医療の現場の現状等スライドを使って勉強したい。
現場の生の声を聞ける（施設、家族、医療従事者）研修
- ・病気・疾患について（研修会を通して知識がつくようなもの）
認知症の具体的なケアについて（各施設で取り組んでいること、対応）
- ・パーキンソンについても何かと併せて勉強会希望したい。
- ・開業医、訪問診療の理解・連携（入院受け入れ病院も含める）
看取りの研修、一般家庭への普及、罪悪感（看取り時に病院へ受診しないこと）→自然死へのすすめ。
- ・優しい心の街作り。
- ・認知症のケアについて研修に取り組んで頂きたい。
- ・認知症の研修が多くなっているが（テレビで見ましたが）ユマニチュード魔法の技術を学ぶ機会があれば良いと思っていますので、よろしく願います。
- ・在宅での看取りについて、今後、グループホームやサ高住、有料老人ホームが増えているのが、そこでの医療連携について、（一人暮らしの人は、このようなすみかえが必要になってくる）その場の医療・介護の連携について
- ・1症例（困難事例）の問題解決症例など。例えば・・・と実際にイメージできる内容も良いと思います。
- ・講演も必要だとは思いますが、座学ではなくグループディスカッション等であれば他職種との関係が近づき易いと思います。

(介護員)

- ・施設運営者への介護者の職員の環境向上への指導を。
- ・介護福祉士等の資格を取る方のための学習、情報等を学べる場。
- ・具体的な連携（事例）内容。
- ・相互の現状問題、課題の取り組みや、ディスカッション。
- ・介護で認知なった方がなかなか施設に入れない方々が多い。本人の意思で入るのは難しい。介護者の負担もっと減らして欲しい。
- ・褥瘡のある方に対するポジショニングについて。
食事介護と食事形態について
- ・情報交換、お互いの理解。
- ・横のつながりを密にする。同業者の人との交流。

(福祉施設関係者)

- ・経営者のディスカッションと専門家の意見の提供。
- ・全国に先駆け、高齢者対策を行政、関係機関、民間資源を含め、全国に注目され「お～!!」と言われる事業。これまでになかった施策を実現する為の取組、研修を。若手の意見をもっと聞く!!

(その他)

- ・高齢者と睡眠の関係。
- ・もう少し具体的な対応の仕方を聞きたい。
- ・パーキンソン（レビュー小体型）と云われ的確な診療を頂き安心した余生を送らせて頂きこころより感謝しております。関係者の方々のすばらしい早急の連携プレーに暑く御礼いたします。